
デスレス
DEATHLESS
4 FOUR
六道神士
Rikudou Koushi
YOUNG KING COMICS


サァァァァ
←大浴場
1F せせらぎの湯
2F こもれ
ザァァァァ
はー


六道神士
presented by Koushi Rikudou


第31話 いやされるひとたち
デスレス
DEATHLESS
5


よい湯だの
ほう…
オヤジに直に言ってやってくれよ
スーたんが褒めたら晩飯のグレードあがるぜ多分
いやいや大勢で押しかけておいてこれ以上を望んではバチがあたるというものだ
感謝する松川殿
ホ～
ポへ～
部屋風呂があるとは気が利いとるわい
タパパパ
パパ
おまえも入れてよかったのうフク


しかし…
ワシまで出て来て
よかったんかい…
こんなこと
しとる場合じゃ
ないと思うんじゃが…
テリリリン♪
テリリリリ
ギャッ
はい
もしもし
宮森で
ございます
もしもしー
松川ですけど
ミズキいますか
ああ——
アンタかい
すまないけど
ミズキは
今ちょっとね…
じゃーミズキに
伝言お願い
できますか
「温泉行かね？」
って
こーちゃ
こーちゃ


この陽気にかい？
そのかーしタダっすよ？
タダ？
ちょっと義務みたいなもんってゆーか
こーちゃーん
わかったわかった
年一でオヤジのやってる旅館に顔出すことになってんすけどね
一人で行ってもつまんないんで
ほうご実家が旅館なのかい
しかしミズキまで甘えるわけにゃいかないよ
いやけっこー前にウチの両親離婚してんすけど…たまに我が儘言わないと逆にオヤジ不安がるってゆーか…
ぶっちゃけ友人連れてった方が安心するみたいなんすわ
は…そりゃまあ…
あけすけな…
…アンタがこなれてるワケがわかる気がするよ
ンなわけでちょっとウザいトモダチんちに遊びにくるって程度に…その
………大町のヤツにも気分転換になるだろーと思いまして
ああ…
………気分転換かい…


松川さんや ちょっと相談なんだがね
おっと ミカサばーちゃんに改まってそんなふーに言われっと怖いなー
タダたぁ言わないから ついでにオマケを…
ところで スーたん
スーたんで もーいいい… んむ？
ミズキのヤツぁ まだ起きねーのか？
うむ…


ヘタァ
水はちと苦手だがフロはよい
とりわけ火の山の湯は吾の性に合う
ここに住むのも悪くないの
できんじゃやね？
今のスーたんならオヤジ一発でオチるぜ多分
ユルんでるスーたんもいーけどよマジでミズキ大丈夫なのか？
そうだ
なんだか激しい闘いがあって消耗したと聞いたけれど…
本当に大丈夫なのかい？
むむ…いや心配はない…



ミズキ殿はまだ疲れが抜けておらぬだけのようでの
大丈夫だ
ふぅ…
ドクン
ドク
なにをびくついておる
ほれ…皆心配しておるぞ
大町殿など己の事をおくびにも立てず気遣ってくれておる
やれ…
己を誤魔化してもなにもならぬぞ


あたしのせいで…
大町(マチ)のお母さんが
大町(マチ)にどんな顔して会えば…
あたしのせいで…
あたしのせい?
あの時…なにもしなければ…
見捨ててよかった?
被害者 大町ひばりさん(49)


責任? 誰の?
あたしは 誰も殺してない
どうすれば 償える?
何を償うの?
どうしたら 許してくれる?
誰が 許してくれる?
考えることを やめちゃ いけないよ
考えても――
いくら 考えても――
ミズキ殿!


!
ミズキ殿？
消えた？……
フクウ…
目が覚めたか…
よい…ぬしに悪意が無いことはわかっておる
ぬしにも事情はあろう
?
それより この有様だ
ミズキ殿が・・・見えなくなった…
自らの内に広く溶けて反響しておるようだが…


これが噂の
おぉ…
引き籠もりというやつか…
?
ミズキが?
うむ…
ちょっと想像出来ないが…どんな風になってんだい
この中で考える事…自身の存在そのものを拒否して霞のように希薄になっておる
なんでまた…
おそらく強力に現実逃避を望んだのではなかろうかと…
ミズキ殿がさらに落ち込みそう故事情は話さぬが…


ちとクスリが効き過ぎというか…
因果応報と言おうか…
読めんわあんなの
?
しかし…こうなると一月の猶予が有り難いね
ほう?
意外だのミカサ殿はあやつの言を信用するのか?
信用ってんじゃないさ…
なんていうかね…
アイツが…本当に面倒臭がってるように感じたのさ
倦み疲れたような気配っていうかね…
今回の件は…あの何者かの望みじゃなく使命なんじゃないかと
ふむ…他ならぬミカサ殿の勘だからの…


一月…
微妙な猶予ではあるが…
ミズキは…元に戻んのかい？
さて…吾の声も聞こえておるのかおらぬのか…
まあ悲観しててもしゃあないね
ミズキにゃちょっと考える時間も必要だと思ってたし
なにか気分転換でも考えるかね…
まあ吾が気をもんでもどうにもならぬ
愉しんでもバチは当たるまいて
牛乳無えの!?
マジで?


おおー
ん…
モク
おいしい…
モク
ん…配膳はよし
味も落ちてねえな
モク
そんなにあら捜しをしなくてもいいじゃないか
抜き打ちチェックも頼まれてんだよ
なんちゅうか…
うーむ
申し訳無いのう
ハク
ハク


気にしねーで下さい 一人や二人変わんないっすよ
みんなで来りゃよかったのに
そーゆーワケにものう…
アンタ一緒に付いていきな！
また
この姿でか!?
ボディーガードなんだから当たり前さね
いや しかし…
トス
トス
あんな胡散臭いヤツまで潜伏しとるのにワシが外してええんか
アイツが何しようが関係無いいさ
本末転倒してどうすんだい
目的はここを守ることじゃなくてミズキを守ることなんだよ
万が一でもあの子を矢面に立たせんじゃないよ
とはいえ連中が襲って来んのなら他に何が起こるワケでも……
ええんかのう…
ムサシさん…なんですよね



ピク
そう…じゃが？
あ…いえ
失礼しました
その…
実感が湧かない
もので
まあ…
ワシもいまだに
不思議じゃからな
でもムサジー
若いときって
こんなカンジ
だったんだ
けっこー
好みだぜ♪
娘さんが年寄りを
からかう
もんじゃ…
ん？…
ガタ…


こっ…
小鳥ちゃん！
ゴゴゴゴ
男性客一人追加って…そういうことなのかい!?
誰じゃ？
ヤッホ
オヤジ ここの社長
え？
お・い・く・つなんだ？
失礼だ
50過ぎ あれで。
一言くらい言ってくれたっていいじゃないか小鳥ちゃん！
きぃっ
こんな…どこの馬の骨だかわかんないような男をいきなり連れて…
だから名前で呼ぶなっつーの！
ガタッ
む…
ヌッ
ズイ


なに？
やるの？
……！
ワシは娘さんの友人の宮森水城の祖…いや身内で武蔵というもんです
この度は孫…水城共々ご厚意に甘えさせていただき真に感謝しとります
ス…
――……


……大変失礼いたしました
当館を経営しております
青山といいます
いつも娘がお世話になっております
イヤッ
いや…滅相も無いこちらこそ
おお!?
ふ……
ス…
?
何年修行すればこんな練れ方…
小鳥ちゃん…男を見る目は確かみたいだね
ぜひ…
ごゆっくりお過ごし下さいッ
スタ スタ スタ
…いいのか?
なんというかいろいろないみで…
いいんじゃねーの? なんかウレシそーだったし
しばらくイジられそー♪
緊張した…
親父さん…何モンじゃ?



目線と重心のフェイントだけで思わず手を出しかけたなんぞ初めてじゃ
ずっと合気道やってんだとよ
つえーの？アレ
私たちが御礼を言い損ねたじゃないか…
でもさすがムサじーだなオヤジがこーゆーとき自分から引くの初めて見たぜ
なあスザクさ…
いや…多分素手なら負けとったわい…
あーりゃ相当なもんじゃ・・
ジュ
ジュ～
むは
なんだの？
いえ…
スザクさんのイメージが少し…


なんかもっと ビシッとした おねーさんな イメージだよな
たしかに
吾は この様な ものだぞ？
閑居を 愉しむのは 慣れておるし
寝て食うだけの 暮らしは大好きだ
太らねーヤツの 言い草だよなー
今日は 年齢不詳が 多いなあ…
失礼ですが… おいくつくらい なのですか？
数えて 意味もなし…


忘れたよ
そうだ・・
吾はこのような存在（もの）…



元より盛りもうつろいも無縁の身
らしくなかったのだ
消滅することを考えたことがないわけではないが…
喰われる――!!
甘美な安寧などではなかった――
限りない暗黒の淵――


なにかを遺したくなったのは――
限りを見た恐怖のせいか？…


全く…らしくないの
ミズキ殿のことをどうこう言えぬわ


ん
何事もないんだね
この際アンタも
ゆっくりしときな
気にするタマかい
さて…
トン
トン
いくつか
情報筋をあたって
みたんだけどさー
どうも君♪
死んだことに
されちゃってる
みたいだよ
は？



ていうか「行方不明」「多分死んでる」みたいな？
んでそれをいーことにいくつか不正をおっかぶせられちゃってるみたい
ギラ…
ははは なーんか心当たりに困らないって顔してるけど…
ワルいカオだーー
どのみち元のヤサには帰れないいんじゃない？
……
わかってるだろうがウチも取り込み中でね
役立たずを匿ってる余裕は無いんだ
ご迷惑を…
アンタに言ってんじゃないよ
アンタのその黒幕が何かの役に立つんなら——
呉越同士同じ船にのってやらないこともないって言ってんのさ
ス


へっ口の減らない干し柿共ばっかで気が滅入るぜ
なんなんだよ この状況はよ
へぇー
相棒は情けねぇ事になってやがるしよ
…この間から話が違うぞ…
生きのびといて文句かコラ
ひぃ
儂をアテにして出世したくせに勝手なこと言うんじゃねぇ
コイツぁ要領だけいいもんだから嫉妬されてたのさ
…うるさい
へぇ…


さて…
問題は取引材料があるかどうかだ
ふん… 僕も消えるのは嫌だからな
夜叉のねーちゃんはいなくていいのか？
あの子らに大人同士の話はあまり聞かせたかないからね
ムサシにもね
第三十一話／完
部屋も別じゃし護衛もくそもないもんじゃ…
ほんとにわしだけええんかのう
うまいか？フク


なるほどねぇ
あんたらの
簡単な成り行きは
わかったぜ
——さて
んじゃあ
こっちの番だな
まずぁ
簡単な方から
紹介しとこうかい
コイ・・・ツ・・・
旦月ぁ
ただの
・・・人殺し・・・さ

第32話　さがすひとたち




穏やかじゃないね
どうなの？
…色々ありましてね
本当のことじゃね…
うるさい
フゥ…
チッ
仕方ないお話しますよ
あれは20年ほど前でしたか——
丁度中学生になる直前くらいだったかと…
家出中 寒さに耐えかねた私は小さな山寺に忍び込みましてね
ふんふん
ま こまかい所は ツッコミ おいとこう


――てなワケで
住職が血の海に
沈んだわけだ
端折ったねー
何が
あったんだい
いやあの
貴様……!
大した事ねえ
話に時間
かけんじゃ
ねえよ


そしてその住職が息絶える瞬間…
感染ったんだ
そのような感じです
僕を病原菌みたいによー
考えてみて下さい
入墨が喋りかけてくるんですよ
まあ…自分の正気を疑うよなフツー
貴様が言うな！
しかしガキの頃に強盗殺人かい


まーコイツの肩持つワケじゃねぇけどよ
我が宿主ながらあの坊主ぁ変態の屑だったぜ？
余計な事を言うな！
へー
まああんたらの馴れ初めはわかったよ
本体の方はほんとに ただのチンピラなんだ
本題は入墨が何者かってことだね
そこが問題よ
…儂はとある寺の住職に何代もの間受け継がれてきたなにかさ
名前は無い
受け継ぐって…
先代が死ねば次の代に乗り移ってな


その言い方だと…
あんたにも自分がなんなのかわかってないってことかい？
そういうこったな
信じるか？
信じないね
身も蓋もないねー
お互いに全面的に信じる場面じゃないだろ
今もこのなにもかもが茶番じゃないかって疑ってるよ
まあいいそういうことにしとこうってね
オーケーこちらも安心して勘や憶測で話ができるってもんだ
しかしまあ出自がわからねえだけで無能ってわけじゃねえんだぜ
山出しの屑だったこいつに多少の礼儀を仕込んだり
ぐっ…
化け物の気配を感じたり
化け物に対する知識を利用してこいつに成り上がらせたりな


役に立ててると思うぜ？
利害を確認しとこうか
何が望みだい？
信用の置けない味方なんざなまじな敵より厄介だからね
なあ…儂は一体何なんだろうな
ねー
質問に質問で返されてもねえ
儂は多少危険を察知できる


現にコイツは儂の助言でマズい場面を全部避けて通ってきたんだぜ？
たまさか先代の宿主は死にゃあいいと思ってたがコイツとはそれなりにうまくやってんのさ
それがここにきてこの為体だ
宿主は危うく殺されかけた挙句立場を失っちまった
儂の勘が鈍った？違うね
——お前さん方か
——ここか

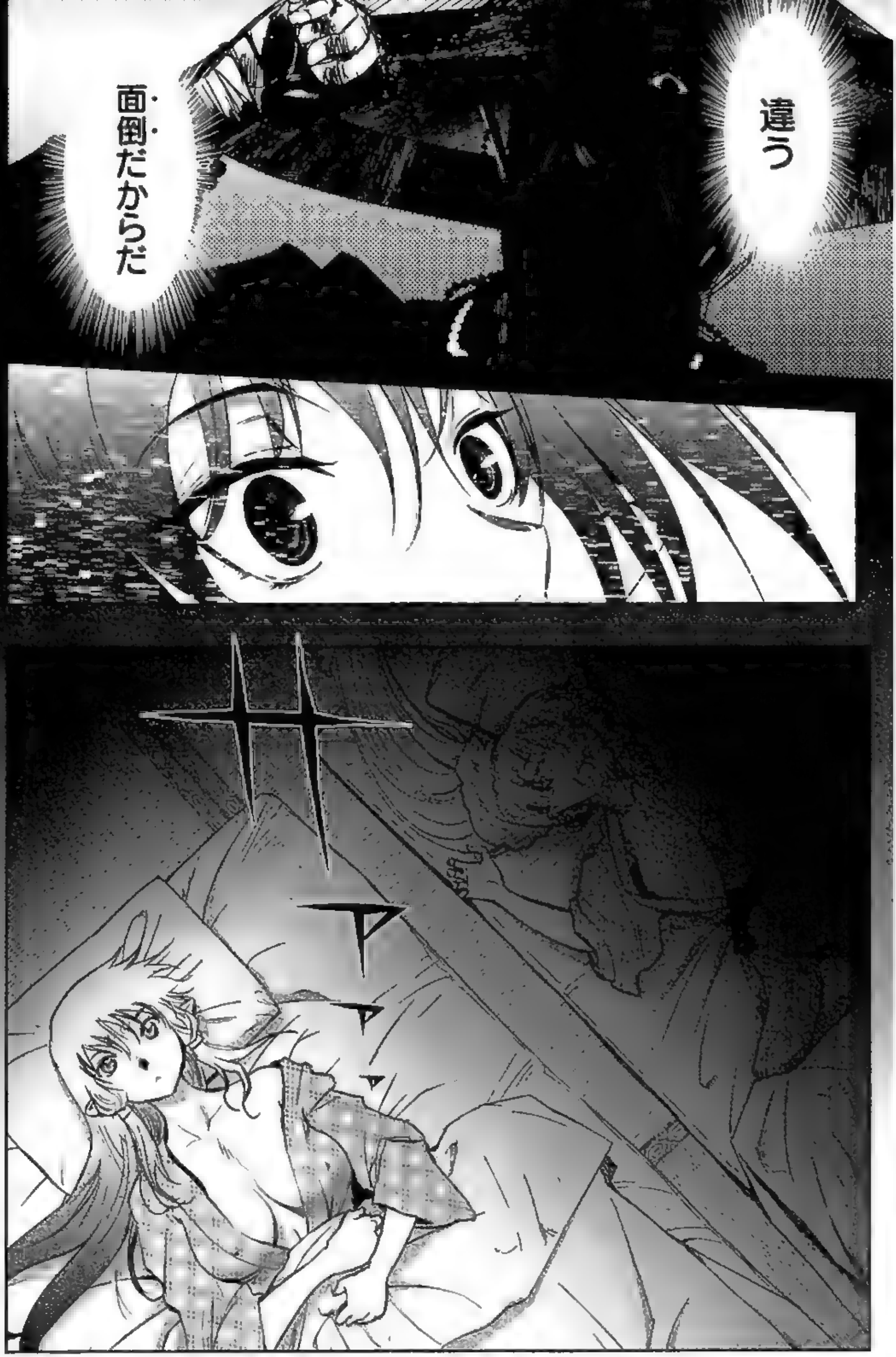

そのどちらかに
引かれているのさ
儂は
だとしたら
ここに儂の運命が
あるのかもしれねぇ
儂は
これに関わる為のなにか
なんじゃないかってよ
……入墨が
自分探しかい
ま
いいだろ
あの…
私の意思は？
悪いが
選択肢は
無いね
まあカタがついたあと
生きてりゃ
地元ヤクザくらい
取りなしてやるよ
ズズズ
さて…アタシらは
外もうろつけない
役立たずに
用は無いんだよ
パン


カマドさん！
控えておりますれしてー
ええと…？
ほう？
とりあえず姿を隠してもらおうかい
カマドさん死なない程度に食べちゃっとくれ
はてらーよろしいのでありまして？



人を喰らうな
やれ うるさいの
人間の理屈など知ったことか
それでは汝は けものか
けものは食らい交配するほかは遊ぶか寝るか——


そして己より強いモノに会えば獲って食われるのみ
食われぬようびくつきながらのんべんぐらりと喰らいつつ生きてゆくか
わかったわかった吾はけものではない
小理屈並べおってうるさいの
ひとに混じらばひとの理屈に馴染め
殺すな
……ふ……
悪い事だからか？


違う
面倒だからだ
サァァァ


ザァァァ
川の音か…
ザァァ
ザァァ
古い記憶を視たものだ
人を殺めるな


そのような
命令を聞く
いわれは無いの
命令ではない
殺し合わぬことは・・・
最低限の約束
その約束がなければ
他の約束事が
何一つ始まらぬからだ
約束?
そうだ
約束だ
互いに決めた
しるし・・・
破れぬよう
・・束ねる事だ
けものとひとを
選り分けるものだ
どれほど昔の
ことであったかな…


よっと
ふやけてしまいそうだが目が冴えてしまっては仕方が無い
適当な風呂が空いてないかの
約束などと面倒な…
違う
面倒を避ける為に約束があるのだ
殺すな
いちいち殺し合っていては面倒だからだ
盗むな
盗めばよいならだれも造らぬ
造る者がいなくなっては面倒だからだ



ほ
丁度よい
……ふ……
何故か思い出してしもうた
ミズキ殿にも見られてしもうたかの


何故 坊主などと約束を交わさねばならぬのだ
ならば天地と約束を定めよ
己自身と約定せよ
まったくこっぱずかしい道徳の時間であったが……
今思えばあの時勢にしてあの坊主の言は尖っておったの
最初の約束を突きつけた時の顔は見物であった…
お客様?——
ん?
申し訳ありませんがお客様


ただ今の時間は
メンテナンスに
あてているため
お客様方の入浴は
遠慮させていただいて
おります
恐れ入りますが
どうか朝6時の
入浴時間まで
お待ち下さい
ふむ…？
この声は…
ああ
時間外とは
失礼した
つい目が
冴えてしもうての
え……
いえ失礼…
女性のお客様
でしたか
わたくし
こちらを向いて
おりますので
脱衣所の方へどうぞ
おお…
こちらは男湯で
あったのか
?
寛ぎの所 失礼した
父上殿
松川殿の
父上であろ？
ああ…



小鳥ちゃ…
小鳥の友達の
方ですか…
こちらこそ
失礼しました
スザ…
ミズキと申す
そういうことなら
ミズキさん
僕はもうあがろうと
思っていた所だから
ゆっくりしていくといい
ありがたい
すまぬがお言葉に
甘えさせて
いただこう
……
ええと…
ついでで
失礼だけど
ミズキさん
あの子の
ことだけど――
はて…？
いえ小鳥は
その…
あの男の
こととか…
やっぱり
付き合ってたり
するのかい？
ん？


ふむ…もしやムサシ殿の事か？フォローすべきか？
フ゛ンフ゛ン
しろ！
ムサシ殿はこちらの縁者で護衛のようなものでの
松川殿とは初対面だ あの姿ではの
そ…そうなんだ
ホッ…
破格値で同行を許して頂いたと恐縮しておったよ
それと――
それと小鳥は…学校ではどうなの…かな
どう…とは？
いや色々と…人間関係とか…


親御殿相手といえど
その暮らしぶりを
当人の許し無く
告げ口をするような
友人が周囲に
おらぬかどうか…
といった事かの？
いや
そんなつもりじゃ——
娘ご本人と
語られては
いかがか？
！
父上殿
無闇に気配を
消すクセは
いかがなものかと
思うぞ
これは一本
とられた…
ははは


他人思いの
よい子だよ
報告で無く
感想で
申し訳無いの
いや…
充分だ
ありがとう
ひとの親とは
いつの世も…
なんだミズキ殿
羨ましいのか?
あの何倍も
心配されておいて
贅沢な



裸なんて大概慣れてるのに…
最近の子は……!
ドキドキ
ていうか…ミズキさんって言ったか あの子…
あの男もだったけど
それよりもっと底知れないっていうか…
小鳥ちゃんの知り合いって一体…
ほんとに小鳥ちゃんと同い年?
それにしても清掃中のフダはかかってなかったのか?…
ていうか浴場の入り口はカギを閉めてあるハズだが…
準備中
!?
ガタ


ミズキさ…
ダッ
!?
これは……!


来るな！
まさか！…
!?



こういう気配ってヤツがだんだんわかってきたわい！
ムサシ殿！頼む！
見られるわけにはいかんか
なんで一緒におるんじゃ
間が悪くてこの


おうっ！
飛んだ！
バサッ
バサササッ
まさか
本当に…



第三十二話／完


第33話　見上げるひとたち



して…父上殿
天狗とは…？
……


露天風呂…広かったでしょう?
ふむ なかなかに快適であった
ほふ
つい先日拡張工事をしたんだ
自慢かい
何の話じゃ
それで工事の際いくつか大きな岩を移動したんだが…そのことで地元の年寄りと揉めてね…
彼ら曰く——「祟られるぞ」と…
山岳信仰やら石神信仰はどこにでもあるんじゃな
この土地には大天狗の伝説があってね
それで天狗?
勿論そんな迷信なんて私は…


しかし…
あんなものを見てしまっては…
今だって一緒にあれを見た君らだからこんな話を――
ああ…あれは――
なかなか大きな鳥であったなムサシ殿
[redacted]
1M.
キュッ
え?
お?
彼奴等(きゃつら)はあれで羽を広げると結構な大きさゆえ間近で見ると迫力があったの
そんな…


のうムサシ殿？
お…おう？
しかし…あれは――
珍しい種類の鳥ではあった
私だって信じたくはないが――
ガタ
大の大人が夜更けに雁首並べて真剣に語らうまでもない事だ
ドン
妖怪（あやかし）なぞ本当におるわけがなかろう



おい…
なんだ ムサシ殿
ペタ
ペタ
ペタ
ええのか？ あれは…
話に乗って なんとする
騒ぎになって 吾等に利することは なにもない
しかし… ありゃあ…
その… 化け物の類 じゃったろ？
うむ… ムサシ殿の剣が 効いておったし…
いずれ そういった 手合いで あろうな
フン


こんな所へ来てまで化け物かい
ったく
偶然とは思えんのう
同感だが軽々に関わるわけにもいくまい
まずは…まあないとは思うが…
確認だ
テリリリリリリリ
テリリリリリリ
テリリリリ
はい
もしもし？


殺すよ・・・
ゴゴゴ
いやちょい待て！ワシじゃなくてミズキ…でもなくて
この地獄の底で百万遍反響した亡者のような声はミカサ殿か？
なんだスザクさんかいこんな時間てこたいい知らせじゃないね
うむ実は——
——なるほど
つまり連中の仕業かどうか確認すりゃいいんだね？
うむミカサ殿の勘働きは信用するが敵方が一枚岩ではない可能性もある
もしもし？
現場の暴走てなありうる話だ
やれやれ

旦月(たんげつ)！起きな！
ええっ!?
アンタしか連絡先を知らないんだよ！
なんですかこんな夜中に非常識な！
チンピラが小賢しく常識振りかざすんじゃないよ
急用だよ！とっとと目え覚ましな！
…寝起きは機嫌が最悪でな
あの天狗とやらより迫力だの
使い捨て19号
09087


いえす！グッドミッナイッ☆
乙金！乙金！でございます！
まあ！こんな世界の半分にとって非常識な時間に旦月さんからお電話いただけるなんて…
ビョン ビョン ビョーン
殺したい！
いえ一度殺しましたね うまいこと言ってしまいました
ほ ほ ほ ほ
何もうまくありませんが？
代わりな
おや宮森様？
——いいえ？
宮森様に関することではこちらは一切動いておりませんとも


マジです
誓ってもよいです
誓いましょうか？
何に？
うるさいですか？
何か問題でも
おありに
なったのですか？
お疑いでしたら
私自らお伺いして
全力で何かを
されれいらららりらすが
寝ぼけて舌がもるれました
とさ
ミャァァ
そうか…うむ
わかった
このような
夜更けに
すまなんだな
ミカサ殿
いやほんとに
ゆっくり
休んでくれ
ガチャ
…へっ…


あの変な教団とは無関係ちゅうことか？
知れたもんじゃあるまいが
一応確認したが…おそらく嘘は言っておるまいよ
別に奴らにしてみれば吾らが不在のうちに家に乗り込めば済む話だ
吾らの余裕は危うい口約束の上に乗っておる
休戦協定という前提が壊れるならそもそもここにこうしている場合ではない
さっきも言ったがやはり偶然じゃないんじゃろうな
まあ…ムリがあるの
ウ…
それにあれは…
憎いか
哀しいか——
何事か篭もった目で吾を見ておったからな…


お前…長生きしとるんじゃろ？
方々の化け物に何か恨みでも買っとるとかないじゃろな
あんな化け物見るのも初めてだ
あれを見た吾の率直な感想はな——
莫迦な…
こんな出鱈目な化け物など本当におるわけがない
いや今宵二度目の「お前が言うな」という顔をされても本当なのだから仕方がなかろう
これでも極力ひそやかに過ごしてきたのでな



では朝に改めての
ペタ
ペタ
吾の身に覚えもなし…
あるとすれば…
えい面倒臭い…手早く片付けるか
ちと距離が離れるやもしれぬゆえ付き合え
?
寝ておってかまわんぞ
ザア!


宿を見はらせるのはこのあたりか？
特に結界の類の痕跡も感じぬが
やれ…カマドがおれば少しは何か分かったかもしれぬがな
遅い！


わざわざ餌になってやっておるのに…もしや化け物の分際で昼型か？
それとも餌が違うのか？
それならそれで問題無いが
あるいは餌が不足しておるのか
おお
成る程 演義に出てくる天狗といえば——


好色
ふん
まだ秋気も浅いとは言え入浴の火照りが台無しだ
これで不服ならば仕方無いの
十数えたら帰ろうぞ！


十…
現金な奴め



ザアアア
ったく楽しみにしてたのにムカつくよなー
お
スーたんおはよーす起きたんだ
?
まいったぜ 今朝 朝風呂行ったら露天風呂が使用禁止でよ
メンテナンスでは仕方ないだろう
カチャ
カチャ
カチャ


気のせいか――
スザクさんがものすごく消耗しているように見える
いや…
少々夜更かしをな…
ヒュ ヒュ
ヒュ
ヒュ
不覚…
普通にひらひら逃げ回られるとは考えなんだ


スーたんなに？
その裏山
飛び回った
みてーなカッコ
だいたい
飛ぶとか
基本卑怯であろ
おはよう
皆さん
露天風呂あれ
どーなってんだよ
オヤジ
ごめんね
小鳥ちゃん
ちょっと
工事が…
なんだ
オヤジも
寝不足かよ
あ…
おはよう
ミズキ君…
？


ミズキ…おお今はそうであった
お早う父上殿
昨晩は…その…みっともない所を見せてしまってすまなかったね
頭が冷えたよ
彼にも迷惑を…
カチャ
あムサじーおはよっす
おうおはよう
寝坊してしもうたわい
ムサじーも寝不足かよ


……………？
おはようございます
武蔵さん
はは
昨晩はどうも
ご迷惑を
おう…？
いや大した
こっちゃないわい
んだよ
知らねー間に
人間関係が
二回ぐらい
ワープしてんぞ
見た事ねえ
ハタが一杯立って
やんの
なんのフラグだ
仲良く
なったようで
なによりじゃ
ないか
ユラ
ユラ
ヒソ
ヒソ
ヒソ
地元の猟友会に
害鳥駆除を
申請しましてね
害鳥て…
娘と同い年の
後妻激誕かよ
祝福
できないか？
スーたんは
ともかく
ミズキはママって
呼べねーなー


どのみち常識的な対処から始めるしかありませんからね
昨晩はうろたえてしまって本当に失礼しました
はは
こっちもどーしちまったんだか…仲悪いよりゃいいけどよ
なんかなー
あるいはもっと複雑な三角関係かもしれないぞ？
生々しい距離だと意外と楽しめないな
いやまあ…いいんじゃが…
オフクロが知ったら面白がって見物にくるぜ多分
はは…
……
っと…
気を遣わないでくれ
NGワードを増やしてはキリがない
モク
モク
わかった
悪り


やれ……課題の多いばけーしょんだの
む？
まだ駄目か…
難儀な問題ばかりだ…
どこから手をつけたものやら



癒やしのための忘却を罪悪と感じるか
スーたん
若いとはそういうものであったかの
なースーたん
おーい
お？
で？スーたんはどーするよ？
すまぬ考え事をしておった何の話であったかの
昨晩は久々に張り切ったせいか調子が狂っておっての
ねーとは思うけどもしそーならさ
ハハ…
アレって結構モロいんで壊さねーように遊んでくんね？


いや
引き籠もってんのも
なんだし 散歩道でも
ブラついてみね？
ってハナシ
おお…
成る程
そういうことならば
すまぬが吾は昨晩
寝ておらんので
軽く休みたい
起きて
時間があれば
付き合おう
おっけー
徹夜で…
チャプ
やれ…
昨晩のうちに
片を付ける
わけには
いかなんだが…
あやつの狙いは
はっきりした


狙われておるのが・・・こちらだというのなら かえって気は楽だ
クン・・・
ん？
臭いが違う…？ 浴衣を間違えたのか…
スン
スン
寸法が変わらぬということは大町殿だな
まあ 私物はないし かまわぬか…
……
バサ・・・


なんだ…？
この頭の中の警報は
……おや？
どした？
いや…浴衣の袂に葉っぱが…
メタセコイア？
…あ


あれ…やっぱり帯の柄が違う
多分この浴衣はスザクさんのだ間違えて着てきてしまった
身内のだしサイズ変わんねんならいーだろ別に
おんなじ旅館のユカタだしよ
それより秋の葉っぱだろ問題はよ！
Next HINT!
どういうことだ…
は
まさか……
外でだというのか!?
アグレッシブだぜスーたん…
第三十三話／完


ザザァァ
まー冗談はともかくよ
スーたんはいー女だもんなー
うちのパパリンにそんな水ッ気が残ってるたーね
松川でも親の異性問題には抵抗があるのか
んにゃ
生娘じゃあんめーし！
いや生娘だろう…
キッ
たーだなんつーかよ
わっかりやすくウキウキしてる親父とか！
可愛いすぎてウザ……!?



第34話　赦されないひとたち


?
大町!!


いたっ！
！
!…っ



松川！髪！……
…どこじゃねーー！
グイッ
おーアッタマ軽いー
な……
あれは一体…
さー……
わかんねーけど…なんか雰囲気かてーよな
この空気ってアレだろ…


「狂気」ってヤツ？……




ギロッ
…逃がしてもらえそーにねーな
つーわけでオレコイツにカメラの正しい使い方教えてっから大町は専門家呼んでこい！
いやそれは松川が！…
譲り合ってる場合じゃね——……
おわ！


松川
すまないが足をくじいたようだ…
大町(マーチ)!
さすがに怖いので——
早く助けを呼んできてほしい
くそっ!
ダメだ!
——やっぱアテにしちまう


ムサ爺！
昨日の今日とまったく難儀じゃな
木刀を取りに行く暇もありゃあせん！
すっすみません！


ミズキは⁉
ウチらだけっす！
ミズキは旅館に…
いいやら悪いやら…
ふんっ！
むぅ
理由はわからんが狙いは はっきりこの子じゃな…
足をやっとるのに声を上げげんとは我慢強い
ちっこいの！お前は逃げい！
はい！
よろしく頼んます！
即答かい
今時の若いモンも捨てたモンじゃないのう


散歩道とはこちらか…
杞憂であればよいが…
タタタ
フクウ！何かわかるか？
ブルブル
タタ
少しは勘を働かせぬか盆暗者
ブーッ
なんだその「お前が言うな」といわんばかりの目はおぬしまで
スーたん！
松川殿！
やべーんだ！ムサ爺まともな武器がねえし！
落ち着きやれ


ち…
ギーン…
キイ
ザァァァ
それで――
相手は鳥人間なのだな？
ああ！なんか知んねーけど大町狙いでよ！
ザザザ
……あれは！
バサ
ザザッ


ジャジャジャッ
む…
ムサ爺！
大町！
…この状況はまずいの
降りてこい捌くぞコラ！
落ち着けい松川殿


吾はあれを追う
フクウ
松川殿とムサシ殿を頼む
スーたん やっちめー!
うむ
とはいうものの…
嫌な既視感を感じる…


これ待てい！
間違えるな
貴様の目当てはこちらであろうが！
バササッ
ぬ


風呂上りの
吾より
吾の浴衣の匂いに
惹かれたか！
通な奴！
まずいの…
山へ向かっておる
巣でも
あるのか
…ミズキ殿
聞いておろう！
考えよ
大町殿を
見失ってしまうのは
まずいのだ！
安心して
引き籠もっておる
場合ではないぞ！
ミズキ殿
……


確かに ムサシ殿は 戻れば治せる
いっそ目の前で 殺されたほうが どうとでもなるのだ
しかし 連れ去られて しまっては
身体ごと 消されてしまっては どうにもならぬ
大町殿に 赦しを請う機会を 永遠に失うつもりか
松川殿にも 頼まれたであろ
頼むぜ ミズキ
可能な限り 善処する
ミズキに 言ってんす



どーせ
なんかあって
落ち込んでんだろ?
ピタ
……
バレてんだよ
なーおい
ミズキ!
グイッ
オレ
おめーのおかげで
助かったんだぜ
ミカサバーちゃんにゃ
ワリーけどおめーの力
アテにしてたね
だからバケモンが
襲ってきて
軽く死にそーになっても
ぜんぜん怖くなくてさ
…パニくんねーで
済んだ
オレだって
その程度さ
いいか
アテにする
オレ達が
悪いんだぜ?
だからよ
大町(マチ)を頼むぜ
ギュ…

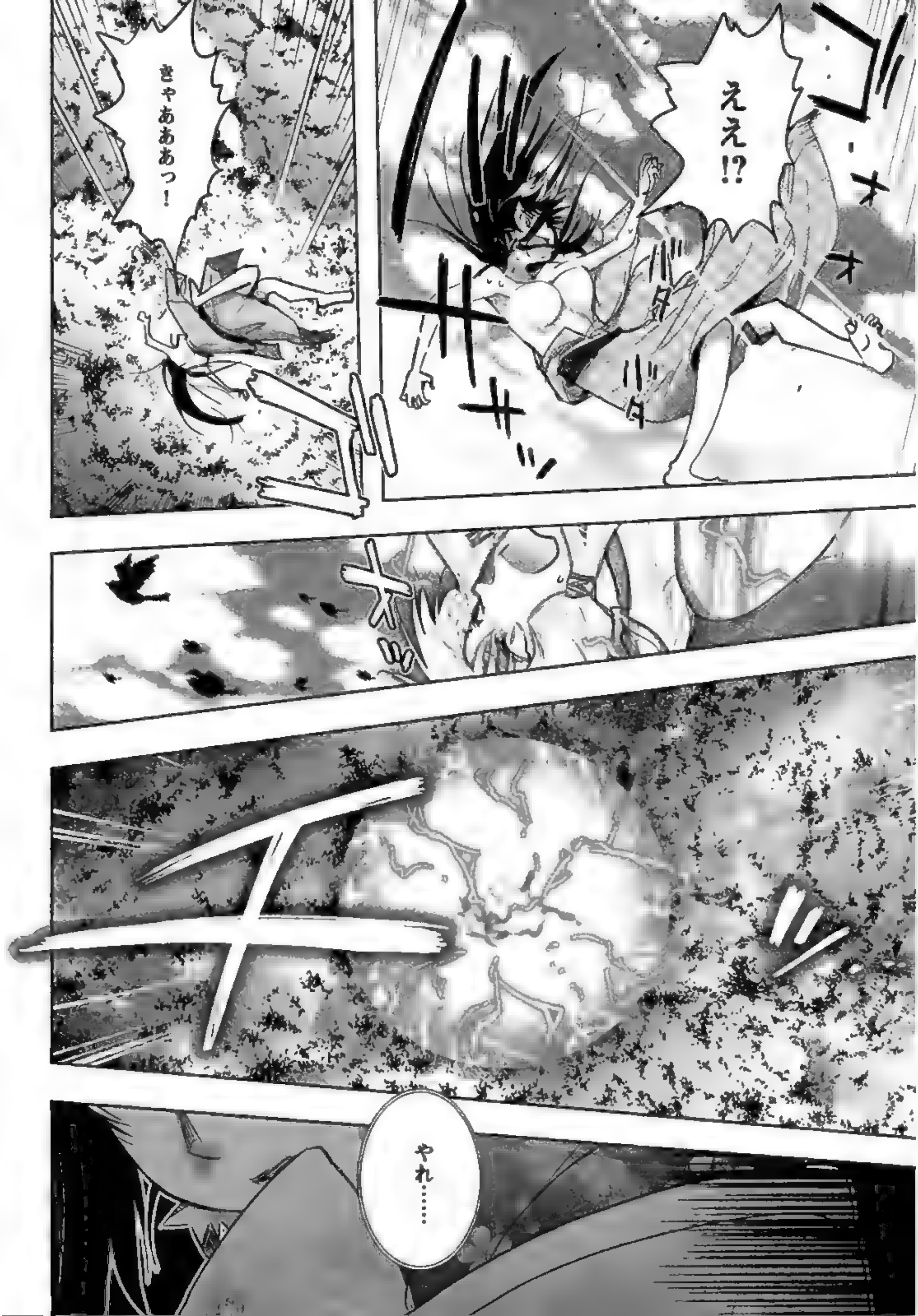

松川殿の望みを
無下にするつもりか？
…あるいは
ミズキ殿
吾ならばなんとか
できるとでも
買い被って
おるのか？
悪いが
ぎぶあっぷだ
吾ら程度の能力を
手にしたとて
取り返しの
つかぬことなぞ
いくらでもあるのだ
いくらでも──



いつまで怖(お)じけておる
己自身にびびるのも大概にせい！
幾度もは言わぬぞ！


・・ぬしにならなんとかできると言っておるのだ
格好良く決めてみせぬか！




ええ!?
きゃあああっ!
やれ……


バサッ…
世話の焼ける…
バサァ‥


……
ぐろっ
あたしも ぐろっ
まったく…やっと岩屋から出てきたと思えばうじうじと


愚痴は大町殿を取り返してからにせい
わかってるわよ！
…逃がすもんか！


営利目的等略取及び誘拐！
量刑は―― えっと…
バサッ
とにかく
返して！


む…
こやつ…


ファサッ
あ…
スザクさん…
大町……
バサァァァ
ミズキか？
空?!
羽?!
なにがどうなって…
キョロキョロ
しかしこれは…


すごいなメガネがほしい！
聞いて……！
大町
お願い聞いて……
そうか…
そんなことがあったのか


医者は治療した患者が
犯罪を犯したら
責任をとらなくては
いけないのかい？
……なあミズキ
うん…
そういうことでは
ないのはわかっている
私も…
言うほど整理が
ついているわけじゃあ
ないんだ
なあミズキ
私に時間を
くれないか？
理屈上
君に罪は
無いんだ
赦すとか
赦さないじゃ
なくて
ただ理屈で
割り切るのに
少しだけ時間をくれ
コク


実のところ母とはそんなに仲よくはなかったんだ
だから…こんなに哀しいなんて不意打ちだった
気持ちいいな
鳥っていうのはこんな気分なのかな
冷静に考えると凄いな
人体に羽が生えた構造で飛べるものなんだ
むぅ
羽っていうのはどんなカンジで動かすんだい？
え？……
どんなカンジって…



い
考えたら
わかんなくなった…
飛び方…
あ
おい！
フク
こっちでいーのか
いつの間に
治したんじゃ
コク
コクコク
ムサじーには
ナイショなのか？
まだ
どこいったんじゃ


化け物の気配は消えとるな…
髪サンキューな
よもや逃げられたんじゃ…
アイツ…!
いや!あれミズキじゃね!?
羽が生えとる!
ギャァ
あー
?
だからだな!


いいか！
「羽ばたき」とは前進の為の推力を産むための動作であってそれ自体は浮力を産むための動作ではないんだ！
やめてーますますわかんなくなる！
もーだめ
己を知るんだ！そして練習だ
もう一回一緒に飛んでくれたら全部水に流そう！
うぉ面白そー！
まぜれ！
……
一度…
剥けたかの
いや…期待しすぎか

第三十四話／完


第35話　交わすひとたち


——まわりの事は見えてたし聞こえてた…と思うけど…
細かいことは覚えてない
視界も思考も時間も曖昧で…
哀しくも無いけど嬉しくも無いところ


でもすぐ近くに すごく大きい なにかがあって
ほんとうにすごく大きくて 見えないいんだけど いることはわかってて
安心だけはできて——


よくわかんねーけど
ヤクチューの反省文みてー
ひどっ!
似たような状況だったであろ
う…
反省…してる…けど…
「麻薬特例法」の正式名称を知っているかい?
いや……そのへんはまだぜんぜん…
「国際的な協力の下に規制薬物に係る不正行為を助長する行為等の防止を図るための麻薬及び向精神薬取締法等の特例等に関する法律」だ
近年の法整備は色々気遣いが多くて面倒だな
そ…そーだね…


本質を暴く言葉が
どんどんスラング扱いに
なっていくというか…
[redacted]は
だよなー
ッしてもミズキ
ホントに
引き籠もってた
のかよ
う…
何があったのか
知んねーけど
シャキっと
しろよな！
うん…
ん〜〜〜〜
カンカン
よし！
二人とも
臭い落ちたぜ！
ほんと？
ふむ…
自分ではよく
わからないが…
アイツ…滅茶苦茶
臭かったからなー
ザバ


あの後――
まだふらるなー
クン
クン
おっとっと…
ドッ
だ…大丈夫なのか？
あー多分…
ハイになってた揺り返しっしょーし
パニクれない性分なもんだからコイツよくこんな感じでバランス取るんです
キュ


あんなモンにさらわれて遊覧飛行とかかなりアレっつーか
トリキライになりそ
ま…確かに難儀なことじゃしな…
しかし…肝が据わっとる
んー…でマジ難儀なのはこっちなんすけど…


鬱陶しい
ウゼえ
そんな…
天使っぽいとかまで言わないけどせめて…
こちとら聖書の国の住人じゃねーし
つかでけーんだよ邪魔!
暑くるしーし
それ…どうにかならんのか?
ムサシお爺ちゃんまで!


いや…
冗談抜きで
その格好で戻る
わけにもいかんし
困るじゃろ
ふむ…
確かに
あ
なんだ
そーゆー…
えっと…
もー
いいんだよね？
む
ミズキ殿が
上からとは
珍しい
どうにか
なるのか
んと…
うん


バササ…


へーーー
ワケがわからん…
あれってまたガッタイできんの？
うん…普段は近くを飛び回ってると思う…
すっげー
すっげーのにいちめたくなるよーなハの字マユしやがって何が申し訳ねーんだおめー
いやだって…
マジで！
スゲーな生身で飛べるとか
そ…そーかな…
ヒーローもんなら鳴りモン入りのパワーアップ回じゃねーか
ホントに
実際だといくら考えても真っ当な使い道が何一つ思いつかねーぜ
ウゥ
えっと…うん…なんかごめん
とにかく戻って落ち着くぞ！


あ…
天狗を退治したですって？
それは…
くおらオヤジ！
ウェルカム鳥人間とか聞いてねーぞ こっそり教えとけよ アドリブでノれるか あんなの！
ごめんよ小鳥ちゃん！
でも新聞ハリセンは はしたないから やめなさい！
なんでテレビとか学者とか焚き付けて利用しねーんだよ！
現われたのが昨日だったんだよ
マジか！
ゴホン


くっそ せめて写真でも撮っときゃ
ともかく…
コホン…
幸いケガはないんじゃが…でっかい娘さんが襲われて寝込んでましてな
大町君が？
あーマジびびって倒れただけだから大丈夫だ
…わかりました
…ホ…
こちらは構いませんのでそちらのご都合がよろしければ延泊を……ええと小鳥？
大町君のお宅へ連絡を頼めるかな小鳥ちゃん
おっけ
あとマジその呼び方やめろ
今日はとくに
……しかし安心しました
電話電話。
正直途方に暮れていましたので
娘達の無事もあわせて感謝します
いやワシはなんにもしとらんです


その…ワシが言うのもなんですが…よく納得できますな
見てしまったものは仕方がありません
まあ…これでも先日は必死で冷静に観察しましたから
あれが本当におかしなものだと納得しているし
そうでないのならまず自分の正気を疑わなくてはいけないことになる
いや…いきなり「退治した」とか
ペタ
ペタ…
普通はこう眉毛にツバを……
客商売がら人を見る目だけはありましてつまらないウソをつくような相手かどうかくらいはわかります
…認めたくありませんが小鳥もそれを受け継いでいるようだ…
?…はあ…
失礼でなければ御礼をさせていただけませんか?
むう…じゃったら…



浴衣を一式と
ほうきを一本
だめにしたんじゃが
勘弁してもらいたい
はっはっは
なんだよ
仲良くて
気持ちわりー
電話したぜー


なんで？
なんで何も言わないの？
…なんだ
小言でも欲しいのか


それとも
褒めて
ほしいのか？
…そういう事では
ないのだな
とうとうか…
やれ…
吾一人では
荷が重い
ミズキ殿
いつから
気付いておった


あの鳥人間を食べたとき…
あたしの中に入って来たとき…
もうほとんど鳥そのもので…
もう意識なんてなかったけど…
あれ…元は人間だよね?
……
少しだけ…聞こえたよね
帰ってきた
この体に…


あれって…元々…
・・・この体に…
スザクや
フクウと同じで…


なんで…鳥のまんまなんだろ
ここでの姿というのは「性」…記憶やこころそのものなのやもしれぬ
とすれば…
人としての「性」を失のうてしまったのであろうな
聞いた話をまとめると…近年まで封印されておったようであるし
何十年か…何百年か…
無明の牢獄で人の心を散らしてしもうたのであろ
何百年牢屋でじっとって
うわあ…
哀れと思うなら巣箱でも作ってやるか？
はは…


ふむ…
ま…
ここは・・・そういうところだな
…はは
は…
ねえスザク…あたしって
やっぱり…


…今頃やっと気付いたのか
え？なに？わかってたってこと？
わかっておったもなにも…
吾は最初から言うておったろう
「吾がミズキ殿に喰われた」と
……………!
そっか…
そうなんだ…そうだったよね
うむ


ミカサ殿らは
多少事態が進んでから
思い当たったようだ
あたし!…
って…
まあ
皆で察した時点で
あえて
誤魔化したのも
事実だ
その点は
すまなんだの
謝るのは
あたしだ…
あたし…スザクと
混ざっちゃったんだと
ばっかり思ってて
でも違って…
私が…
スザクを…
……
ほんと…
ごめん
ま
吾もミズキ殿を
喰おうとしたのは
事実だ
被害者顔を
するつもりは
ないさ
だいたい
勝った者が
謝るなぞ
嫌味であろ
そーゆー
つもりじゃ…
かちまけっ.


そうだ…
考えよ
強者(きょうしゃ)の振る舞いは難しいのだ
うん…
？
どうしたミズキ殿
ミズキ殿！
なんか…ほっとしたら…
眠い…
スザク…
いやいや吾まで寝ずとも
…ん？
あのとき…
怒鳴ってくれてありがと…
……


大町に…
謝れなく なるとこだった
ふ…
んーで
なんか おめーら二人して グーグー寝てっし
起くせーし
ごめーん…
起こしてくれて よかったのだが
そーゆー時は フツー一緒に 寝るだろ
なんで?
てか マツまで ねてたの?


夜飲むために決まってんじゃん！
レア酒ぶん取ってやったぜ！
それは素晴らしい
わしまで？
……
で！ミズキ！詳しく話せ！
できねーんならスザクさんに代われ！
確かにミズキの説明は要を得ない事が多いがそれはないだろう松川
むーっ
いーよ話すし！
ハハハハ


大丈夫かおまえ
ほー なるほどなー
いー カオスっぷりだぜ
そんなことになってたのか
ね… 怖くない？
ナニが？
なにがって…
あたしが…
ミズキ それ今日一番面白れー
はは
ほら見ろ大町が壊れた 滅多に入んねーツボに連チャンだぜ
あのね…
あたし どーなっちゃうか わかんないんだよ？
どーにか なってから 言え！


いまんとこどーなっても振り出しに戻れてんだろ？
いっぺんいくとこまで行っちまえばいーじゃねーか
いくとこって…
ギュン！
鳥喰ってジェットがスクラんで空飛べるよーになったんだろ？
じゃーアレだ次は水陸両用だ
「水」か…
待てよ？
あのときのはもしかして…
うん…
人魚は一回やったみたい…
なんだ実験済みかよ
海のときの…
あのときは仕組みがわかんなかったし…
実験で
そっかあれもだよね
そーだ…
あー他なにか…
海・陸・空で一…
海・陸・空で合体か？
なんで二回言うんだ
今歌わなかったか
大事なことだから決まってんだろ
歌ってねーよ


わかった！
オケラだ！
なるほど地中か！
虫は嫌！
どこいくんだ？
売店でおつまみ買ってくる
お酒ばっかはちょっと…
ペース早…
調子が上がってきたようだの。
はは…お酒には酔えるんだ
まあどうでもよいことでいちいち悩まぬことだ
うん…ひとりで怖がってたのがばかみたいに思っちゃうからすごいね…
いや必要のある事は考えよ
松川殿の言も極端ぞ？
吾は慎重に探るべきだと——
——これはどうも


ミズキさん
…と
えっと松川のお父さんだよね！
はじめ…じゃなかった こんばんわ！
いえ 皆さん無事でよかった
……？
御礼というにはなんですが…肴は足りていますか
ごっごちそうになってます おかまいなく！
すみません
あの生酒というのは持ち帰りはできぬものか…
おい 聞きやれ
スザク うるさい― いえこっちの話で
松川…じゃなくて小鳥さんにはお世話になってます…
こちらこそ我が儘な娘で迷惑をかけているでしょう
いえ…


あたし…
迷惑かけてばかりで
それじゃ…どうも
ペコ
タパタパタパ
ええと…
…いや…普通だろう
娘ほどの相手に…何を舞い上がって…
…
おっかえりー
いいの見つけたぜー
うわ
まだその話？
どっかから百科事典まで引っ張り出して…


オケラは勘弁してやる！やっぱ時代は深海だぜ！
そーなの？
「大王具足虫（ダイオウグソクムシ）」とか負けなそうじゃね？
虫じゃん！
世界の数割を締める未知の領域にこんな方法で手が届くとは
人類万歳
王の具足とはまた強そうな名だの
好奇心
どんなだ？
お スーたんにかわった
こんな
ホイ
あッ
スーたんがブレた！
チキ チキ
レアだ
撮っておこう
…断固拒否する
……
ちょっとざまあ

第三十五話／完


キュッ

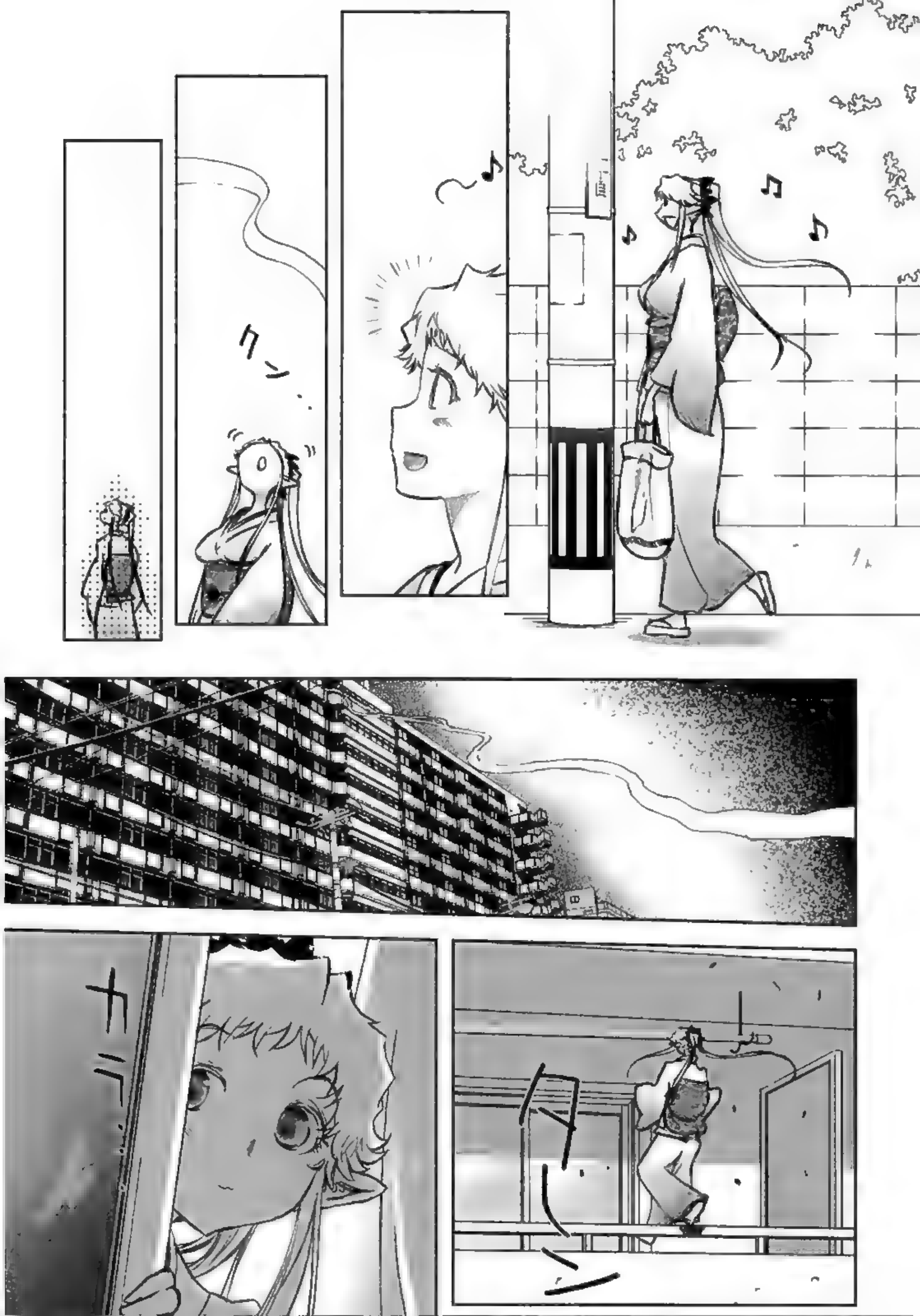


コト
コト
コト
コト



カッ
カッ
カッ
カッ
はぁふ
サァァ


ア
ア
¥
パ
ア
ア


♪
♪
♪
〜♪
クン・・
タン
カラ・・・


ズ
ズ
ズ



眠
Z z z
?
?
?


カポーン
そういえば――
カマドさんは？
留守番だ
つれてくりゃよかったのに
ま…さすがにあの家の守りを完全に留守にするわけにもいかぬしの
それに…
カパン
ごはんであれしませ
カパン
カパン
あやつはマイペースすぎて集団行動に向かぬていうかたまにマジムカつく
そういえば海に行ったときも行方不明になってたよな

第三十五・五話／完


ミャ
ミャ
――ミズキです
ひとまわり
大きくなって
帰ってきました
オオオオ


たった3日温泉で遊んできただけじゃねーか
ひとまわり……
一周して元の木阿弥でないとよいがの
結局 飛べないままだしなあ
第36話 ぼんくらなひとたち



確かになんかえらく長いこと遊んでた気がすっけどなー
うるさいなもう！
たっ…ただいま延寿お爺ちゃん！
心配かけてごめん
でも延寿お爺ちゃんが庭掃除なんて珍し…
ん？…
ジャッ
ジャッ
てゆーか初めて見る…
どしたの？
なんかのバツ？


て…
ズザザザ
──あ
すみません
間違えまし…
？
誰？
ふむ…
この細い目に
其処は彼となしに香る
底辺の臭いは…
私…そこまで
言われるようなことを
あなたがたに
しましたっけね
やっぱり！
あの ちんぴらの人！
まあ他には
おらぬわな


なんだそいつ？チンピラって？
大阪弁の「ちんぴら」という子供への蔑称が訛ったものという説がある
高齢の方に使うのは適切ではないな
中身は糞餓鬼だ あっておる
下品…
糞餓鬼のほうがまだよかったですとも
ゴゴゴ
おう
大町(マチ)調子でてきたなー
旦月(タンゲツ)さんでしたっけ なんでそんな有様に？…
なんでもなにも…
あなたのとこの——
姐様～ お帰りなされましあれ～


お疲れて なされまいですか
ごはんが お先であられ ませたりー？
お カマたんだ
おー
ニャガあるぜ
うん…まー カマドさんが やったんだろー けどさ
あの女…
…そんなに 怖がんなくても
いや
あれの由来は 蟷螂ではなく 亀だぞ
食われる相手が 何だって 同じですよ！
こんな 姿に…


…あれ？
このひと
スザクの声が…？
む…
玄関先で
なにやってんだい
アンタたち！
あ
お婆ちゃん…
ただいま…
……
…ミズキ？
うん…ま～
ミズキ！
戻ったのかい？
ムサシ！
なんでさっさと
知らせないんだい！
ったく!!
どうせ帰ってきて
詳しく
話すんじゃから
同じじゃろ
みんな
飲み潰れてたなんて
言えるか
とかく皆
落ち着かぬか？
ちーすばーちゃん
どーも
みやげあるぜ


――さて
報告することは
沢山あるのだが…
細かい事は
さておき
ミカサ殿
まずは
このことを
承知しやれ
なんだい
大仰だね
ミズキ殿が…
己の正体に
気付いた
ティン
トン♫
解
答
キピーーーン



うまうま
そして
学友殿らにも
色々バレた
今まで以上に
おー
うーっす！
ミズキ
パワーアップ計画
やろーぜ！
ツノとか
尻尾とか生やしたら
可愛くないか？
うむ
吾が
ついておきながら
この為体
面目もなし
…


いやいや
あまり笑っていられる状態でも無い気がするぞ？
スザクさんがハラの据わった顔してるからさ
詳しく話しとくれ
延寿かい？アイツぁ出かけてるよ
浴場
なるほど…
その温泉の近辺の民間伝承も洗ってみた方がよさそうだね
そゆことならうちのオヤジが協力すると思うっすよ
今更だけど…自分が元から人間じゃないとかショックだったよ
そりゃそうさ


あたしがスザクたちと同類だったなんて…
ハア
……
?
なに？
キョトン
いや…
よいか？
ミズキ殿の認識を…いや話を整理しよう
目・死



よいか？
まず
吾がミズキ殿を
喰ろうた
コク
コク
うんうん
共食いって
ことだよね
…惜しい
ブルッ
ブルー
ウ
ミズキ殿…
吾や
カマドやフクウには
このように
相手のありようを
まるごと――
能力やこころや
思いまでも…
己が物に
することなど
できぬのだ
…そうなの？


我らにはあくまで
ほんの少し
時を融通自在にし…
時を奪うたり…
その流れに多少
逆ろうたりする
だけの能力しかない
……えっと
じゃ…
これって…
フツーじゃ
ないの？
れっすん
つー
よいか
話を戻すぞ
まず
吾を喰らい…
そして2番目に
喰ろうたのが
フクウであったのが
分かりづらかった
なにが？
フクウと吾は ほぼ
同類であったので…
ミズキ殿の変化が
少なかったのだ
あ―
生えた…
けどね…


海の一件…そして此度の一件
相手を丸呑みにし…その全てを己のものにする…
それは我らとは似て非なる…いや全く別の有りようだ
でも…一度時が不足して消えかけたじゃない時を食べないとあたしたち消えちゃうって！
ふむ…おそらく訂正せねばなるまい
…吾やフクウは消えた可能性がある
他の人を食べなきゃ消えちゃうってあのときはショックで…


え？でも
てことはじゃあ
やっぱし時は
食べなくちゃ
いけないんじゃ…
人間を…
その点は
安心せよ
なんで？
ミズキ殿…
寝ておるうちに
無意識にこの家周りの
木々の時を喰らうて
おったぞ
木？
植物から？
吾の能力を
喰らうたことの
延長線上に
あることなのか…
ミズキ殿自身の
本来の能力なのか
わからぬがな…
…という次第
まあ…
根本的な解決じゃ
ないにしても
人を食うよりは
どうにかなるさ
…ねえ
よかったねえ
善哉
善哉
ねー


ところでたまに寝ぼけて
この家屋自体から時を
喰らっておることがあるが
あれはやめたほうがよいな
はっはっ
道理で最近
戸の立て付けが
悪いわ家鳴りは
ひどいわ
ホッホッ
ね――――!
なにか
ごかまされてる
気がするんだけど!
おーい
だったら
あたしって…
何なの?
それが
わからないってことが
一番の問題なんだよ……
いや


気付いてたんじゃなかったのかい？スザクさん
ウ・・
そーだったんだ
うお・・・・
吾はてっきり…ここまで浅い見識だったとは…
あたし…てっきりスザク達の同類なのかとばっかり…
違うんだ…
そんで人を食べる必要もないってこと…
なんか…問題なくない？
たっち
ミカサ殿ぎぶだ
ミズキ
あたし達にわかってるこたこうさ


アンタはどうやら相手を丸呑みにしちまうらしい
どれくらい喰えるのかわからない
食い過ぎて食い続けてアンタがどうなるかわからない
ミズキが水城でいられるかどうかすら…
試すわけにはいかないしね
あのいかれた教団が言うところの――
「危険な災い」とやらがアンタ自身であったとしても
アタシらにゃ余計なお世話ってもんなのさ
え……


あれって…あたしの事？
マジで？
その可能性が高いと…待て待て
おい
ミズキ殿…もう「何に気付いておらぬか」でなく「何に気付いておるか」だけ口にせよ
ゴゴゴ
え…っと？なんかひどい事言われてる？
悪いパーちゃん前に偉そうな事言ったけどムリだわ
ミズキたちの能力…緊急時にゃ嫌でもアテにしちまう
まーいくつか問題も減ったみてーだし？
そばにいりゃ実質的に命の危険は無いっていう部分はこの際強みとして考えたほーが前向きなんじゃねーすか？


結局はミズキの意識の問題でしょう
私はただのひとなので想像するしかありませんが…
ミズキはまだ人として生きることもそれ以外としても生きることも選択できるのでは？
大町ごめ…
ミズキ
私は君にそんな人間の枠外の価値観で謝って欲しいわけじゃないんだ
んじゃどーもゴチになりやっしたー♪
お邪魔しました


あの子ら…本当にミズキと同い年かい？
ミズキ殿の方の年相応ぶりを疑わぬところはミカサ殿もやはり婆莫迦だの
ミズキは？
さすがに己が盆暗ぶりにあきれ果ててふて寝しておる
まあ…自覚が出てきたのが成長といえなくもないか…
…ところであれはここに置いておくのか？
まあ話の流れでね
話は聞いた…入墨の妖だと？
それが…カマドさんが言うには化け物の臭いがしないらしいんだよ
ふむ…？
なにかの手駒だとしたら…敵の手にあるよりはこちらで握っておこうと思ってね


アイツがウチに来たのは偶然じゃあない…
どうにも因果を感じてね
罠の可能性は？
一応保険はかけたさ
体が重い…
ああ カマドさんを色々勝手に使っちまって悪かったね
あれは吾の手下でも持ち物でもないかまわぬさ
吾らも…
やることがあるというのは悪くない…
それが消滅への道程だとしても




ほんとだ…
不思議な気分…
あたし…
どういう「災い」なんだろ
恐怖の大王？
連中がそう呼んでおるだけのことだ
なんか悪霊みたいに封じられちゃうの？
憶測に憶測を重ねて言えば――
おそらくミズキ殿はこの地に永く封じられておったなにかだ
この結界もミカサ殿らの血筋も
それを補うものであろうな


しかし あやつ等の動機には ちと素直に首肯できぬ
「安寧のため」に だと？
ミズキ殿の… 「災い」の復活に 気付いておるなら まだしも――
今更ここを 手に入れようと するのは何故か――
ケンカに なっちゃうのかな
周りに迷惑が かかるかも
仕方あるまい
生きていれば 誰しも周囲に なにがしかの 影響を与える
ミズキ殿は その影響が 大きい存在だと いうことだ
それが嫌ならば――
消えてしまうがよい


吾に その覚悟はあると 前に言うたであろ
あたし…
消えれるのかな
…どこまで理解して言っておるのやら
最早 買い被るまい…
そこまで事態を理解しておるならば やることはわかるな
あたし…
自身を知ること？
正解だ


強者の振る舞いは難しいと言ったであろ
強者の義務とは――
誰よりも理性的な影響力であることだ
でなければ此の世は酷く面倒になろう
受け売りだがの
だれ!
…結界内だぞ!
ご…
ごは…


え……！
ここは…
あんた…
乙金…!?
その格好って
腕が！
目も…っ
うわ…
ここは…
よがっだ…
どうしたの!?
あわわわ
なんで
間抜けな
やりとりにしか
ならんのだ
…え～


言えた義理でないごとは…
重々承知の上ではございまぷぽぁ～
ポア
え…
と…？
ひ…



第三十六話／完